

日本人の読み書き能力1948年調査の 非識字者率における生年の効果

横山詔一，前田忠彦（統計数理研究所），高田智和，
相澤正夫（名誉教授），野山 広，福永由佳，朝日祥之

2021年1月19日（火）15時30分～16時30分
NINJALサロン



国立国語研究所(NINJAL)



統計数理研究所(ISM)

注

1. 本研究では『日本人の読み書き能力調査』（1951, 読み書き能力調査委員会, 東京大学出版部）における「文盲」を「非識字者」, 「文盲率」を「非識字者率」と言い換える
2. 『日本人の読み書き能力調査』（1951）を「報告書」と略称することがある
3. **この発表は**2020年9月19日の計量国語学会大会口頭発表, 同年9月29日のNINJALサロン発表, 同年10月24日の日本語学会2020年度秋季大会口頭発表などの**続編**

きょうの流れ

1. はじめに

2. 1948年調査の方法

(1) サンプルの大きさと達成率

(2) 問題と教示

3. 結果

(1) 得点の分布形

(2) チャンスレベルを考慮した非識字者率の推定法

(3) 非識字者率における生年の効果

4. 応用問題

- 1948年調査の結果がGHQによる日本語ローマ字化を阻止したって本当？

1. はじめに

- 連合国最高司令官総司令部（General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers, 略称 **GHQ**/SCAP）の民間情報教育局（**CIE**）の提案により1948年に実施された調査
- この調査は『第1次アメリカ教育使節団報告書』（マックアーサー司令部公表, 1946）に端を発する
- 言語政策に関する第1級の史料

2. 1948年調査の方法

(1) サンプルの大きさと達成率

だれに対して調査を実施したのか？

- 配給台帳等に基づくランダムサンプリングによって抽出された「sampleさん」に対して実施



実態をつかむ： 代表性を保証するために必要な方法

だれに対して調査を実施したのか？

- sampleさんは何人だったのか？

21,008人, 21,000人, 17,100人, 16,820人, 16,814人と諸説あるが, 実際は以下の通り

1. 事前に21,008人を無作為抽出
2. 本調査に参加したsampleさんは 16,814人
3. 横須賀市でサンプリングをやり直してデータを入れ替えた
4. その結果, 本調査より6名増えて16,820人に (達成率80.0%)

だれに対して調査を実施したのか？

• sampleさんの年齢層や性別などは？

1. 15歳（1933年生）から64歳（1884年生）までの男女，**全国規模で女性のデータを初めて収集か？**（先行研究に指摘なし）
2. 男性の場合，1945年以前に実施された徴兵検査にともなう「壮丁教育調査」（簡単な読み書き能力検査）の経年データが公開されている

2. 1948年調査の方法

(2) 問題と教示

- 問題用紙の大きさ：ヨコ36.9センチ，タテ26.2センチ（**ほぼB4判ヨコ**）
- 問題用紙の枚数：6枚
- **文字は手書き，活字ではない**

問題用紙の1枚目

以下の3問が印刷されていた

- 問題1 試験官の発音した語をひらがな，カタカナで書く（8問）
- 問題2 数字，漢数字の書き取り（2問）
- 問題3 試験官の発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな，カタカナ，数字，漢数字，5択（12問）

次のスライド参照



ネ	ネ	ネ	ネ	ネ	△
ヨ	コ	ビ	ロ	ユ	・

ガ	カ	ア	カ	ザ	△
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	・
ス	ス	ス	ス	ス	・

ミ	ミ	ミ	ミ	ミ	△
シ	シ	シ	シ	シ	・
ツ	レ	い	シ	ン	・

オ	オ	オ	オ	オ	△
モ	モ	モ	モ	モ	・
ツ	香	香	香	タ	・

マ	マ	マ	マ	マ	△
ア	チ	チ	ツ	ン	・
チ	チ	チ	チ	チ	・

九	入	八	七	四	×
円	円	円	円	円	・

8キ	3キ	4キ	5キ	1キ	×
口	口	口	口	口	・

あ	あ	あ	あ	あ	○
ひ	ら	ゆ	た	な	・
ま	ま	ま	ま	ま	・

さ	も	ち	な	き	□
る	る	る	る	る	・

た	た	た	た	た	□
は	ば	ば	が	ゾ	・
こ	こ	こ	こ	こ	・

み	み	み	み	み	□
か	か	か	か	か	・
む	し	ソ	ん	あ	・

こ	こ	こ	こ	こ	□
ん	ん	ん	ん	ん	・
に	に	に	に	に	・
よ	よ	よ	よ	よ	・
く	く	く	く	く	・

あ	あ	あ	あ	あ	□
さ	さ	さ	さ	さ	・
て	て	て	て	て	・
て	て	て	て	て	・

(三)

たいしょう に ねん はちがつ にじゅうはち にち
 ○大正2年8月 日

めいじ にじゅうはちねん くがつ じゅうろくにち
 明治28年9月 日

(二)

●●●●	●●●	●●	●	○

●●●●	●●●	●●	●	○

(一)

○ 三丁目 さんちやうめ
 □ に 番地 ばんち

○ 五丁目 ごちやうめ
 □ ち 番地 ばんち

26.2cm

36.9cm

問題1に関する試験官の説明（抜粋）

△問題（一）〔実働時間、コトバヲ読ム時間ヲフクメテ 1 問 30 秒グライ〕

では、用紙の一番外側のを 1 枚とってください（ヤッテ見セル）。この紙です（開イテアゲテ示ス）。右上にこう書いてあります（声ニ出サナイデ（一）ヲ黑板ニ示ス）。ここでは、わたくしのいうことばを、ワクのなかのそれぞれきめられた場所に、ひらがな、あるいはカタカナで書いてください。たとえば、わたくしが『上のワクの白丸（○ヲ黑板ニ示ス）の書いてある下のところに、ひらがなで「いろ」、花のいろの「いろ」（ヤユックリ、「」ノナカノ部分ヲ強ク発音スル）という字を書いてください』といいましたら、そこに「いろ」という字だけを、ひらがなで書くのです（黑板ニ示ス）。○のところはためしですから、みなさまも鉛筆をとって○の下に「いろ」と書きこんでみてください。

られるような字で、だれにでも読めるように、はっきりと書いてください。ゆっくりやりますから、急いだりあわてたりする必要はありません。間違ったときは、その字を線をひいて消し(黒板=示ス)、正しいほうの字を、そのワクのなかのあいたところに書いてください。それでは、まず上の段を右から左にやって行きます。上の段はひらがなで書いてください。

1 ひとつ目、小さい黒丸がひとつ書いてあるすぐ下のワクです(黒板=示ス)。ひらがなで、「さくら」、春に咲く「さくら」です。——(約 15 秒)——いいですか、今のは春に咲く「さくら」ですね。

2 ではふたつ目、すぐ左の小さい黒丸がふたつ書いてあるすぐ下のワクです(黒板=示ス)。ひらがなで、「たどん」、火鉢やコンロに使う「たどん」です。——(約 15 秒)——(ツギニウツル要領ハ1ノ場合トオナジ、以下同様)

3 ひらがなで、「かぼちゃ」、食べる「かぼちゃ」です。

問題は90問，うち**多肢選択式は65問（72%）** 4肢択一が19問， 5肢択一が46問

問題（一）試験官が発音した語をひらがな，カタカナで書く（8問）

問題（二）試験官が発音したアラビア数字，漢数字を書く（2問）

問題（三）試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな，カタカナ，アラビア数字，漢数字，**5択（12問）**

問題（四）試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記は漢字，**5択（10問）**

問題（五）漢字の書き取り（15問）

問題（六）意味が通じる語を選択肢から選ぶ：表記は漢字，**4択（15問）**

問題（七）語の意味を選択肢から選ぶ：問題語の表記は漢字，選択肢はひらがな，カタカナ，ルビ付き漢字，**5択（15問）**

問題（八）読解問題で正答を選択肢から選ぶ：問題文は漢字仮名交じり，選択肢は**5択（9問）**，**4択（4問）**

問題は90問，うち多肢選択式は65問（72%）4肢択一が19問，5肢択一が46問

問題の実像から分かること

1. 問題（三）のアラビア数字の選択問題は簡単そうに見える
2. 横山が2020年2月に問題に取り組んだところ89点であった（満点ではない）
3. 問題（六）の「組合に対する（ ）の方針がきまった」で「政府 or 講和」で迷い，「講和」を選んだ
4. ちなみに問題（六）先頭の設問「朝 太陽は（ ）から出る」は知能テストの問題に似ている

(六)

○朝太陽は

冬 東 雨 上
から出る。

病氣のときは

健康 死亡 危険
にみてもらう。

きょうは砂糖の

配給 産業 食糧 数量
があります。

わが國は米國から小麦を

資金 輸入 法案 声明
する。

選挙のときはもとよい人に

結果 発表 委員 投票
したい。

あの人の

態度 國民 各派 必要
は立派だ。

大会の日時を

労働 予算 決定 事件
した。

私は仕事がないからすぐ

年齢 就職 保険 経歴
したい。

米と

申込 記帳 差引
に豆が来る。

けさの地震は相当の

被害 確犯 場合
ある見込。

塩の

至急 高價 登録 家庭
のすまない方は早くして下さい。

この

意見 經濟 生産 問題
はもう解決された。

供出の

消費 金融 割当 放出
をきめる。

適当な

企業 措置 指定 提出
をとる。

組合に対する

政府 事情 講和 計画
の方針がきまった。

統制を

上程 該当 緩和 緩和
する。

3. 結果

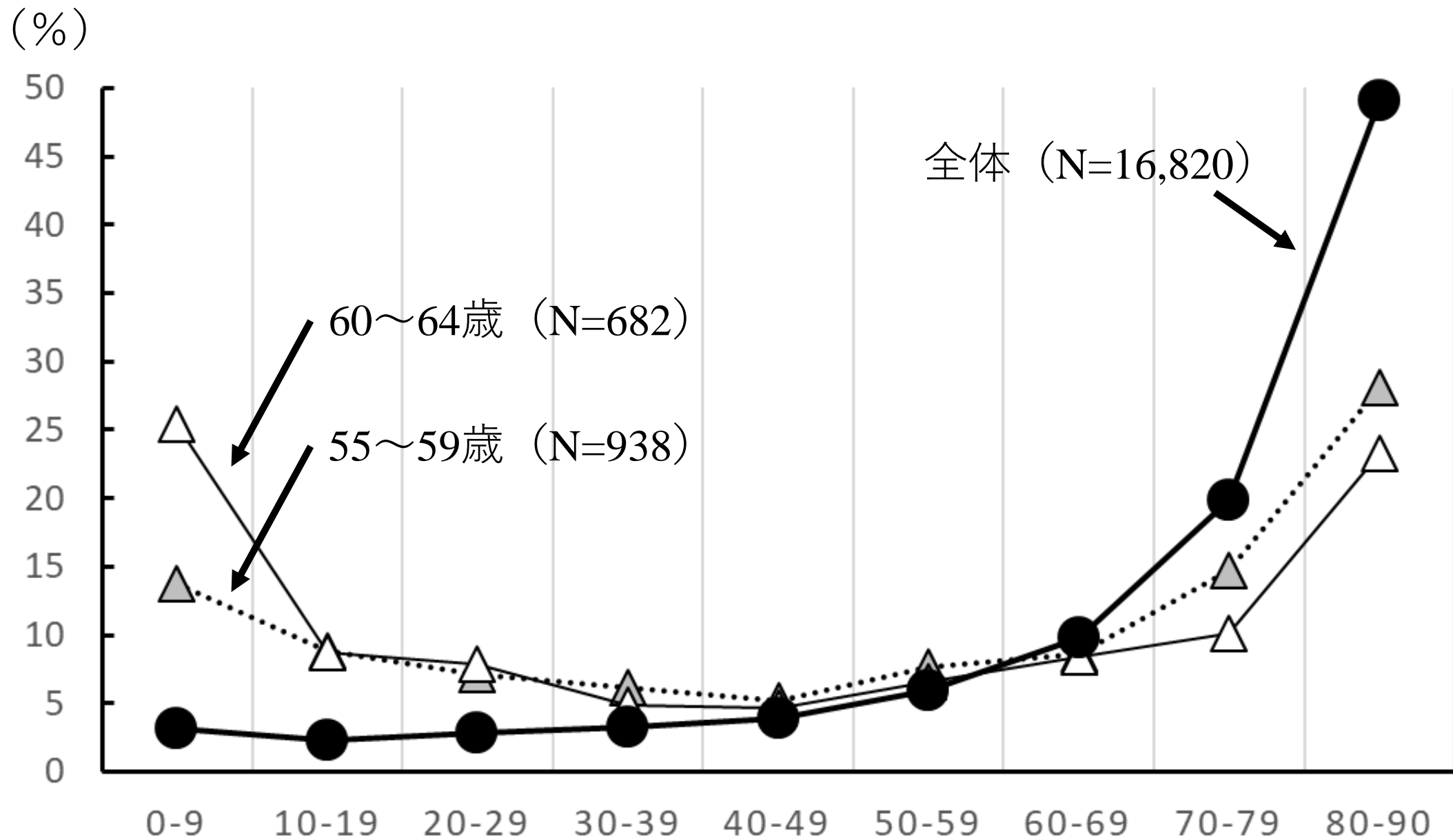
(1) 得点の分布形

報告書では得点の結果は数表で示され，グラフは存在せず

1. 配点は90問すべて1問1点，すなわち正答数が得点
2. 得点ゼロだった人は1.7%，90点満点だった人は4.4%（下の表）

code		19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	
点数		90	89 85	84 80	79 75	74 70	69 65	64 60	59 55	54 50	49 45	44 40	39 35	34 30	29 25	24 20	19 15	14 10	09 05	04 01	00	計
全国	市部	372 6.9	1921 35.6	1042 19.3	594 10.9	355 6.6	247 4.6	143 2.7	117 2.2	81 1.5	62 1.2	63 1.2	57 1.1	62 1.2	53 1.0	41 0.8	36 0.7	40 0.7	31 0.6	15 0.3	50 0.9	5382 100.0
	郡部	360 3.1	2559 22.4	1981 17.3	1381 12.1	1004 8.8	717 6.3	547 4.8	443 3.9	357 3.1	271 2.4	251 2.2	220 1.9	226 2.0	199 1.7	175 1.5	177 1.5	134 1.2	92 0.8	101 0.9	243 2.1	11438 100.0
	地域	732 4.4	4480 26.7	3023 18.0	1975 11.7	1359 8.1	964 5.7	690 4.1	560 3.3	438 2.6	333 2.0	514 1.9	277 1.6	288 1.7	252 1.5	216 1.3	213 1.3	174 1.0	123 0.7	116 0.7	293 1.7	16820 100.0





報告書数表から作図 得点分布 (全体 / 55~59歳 / 60~64歳)

グラフ化すると全体の傾向が一目瞭然

1. 全体（N=16,820）の得点分布はJ字型
2. 報告書にもJ字型分布であると明記，先行研究の多くに引用されている
3. 年齢層が高くなると得点分布はU字型に

3. 結果

(2) チャンスレベルを考慮した非識字者率の推定法

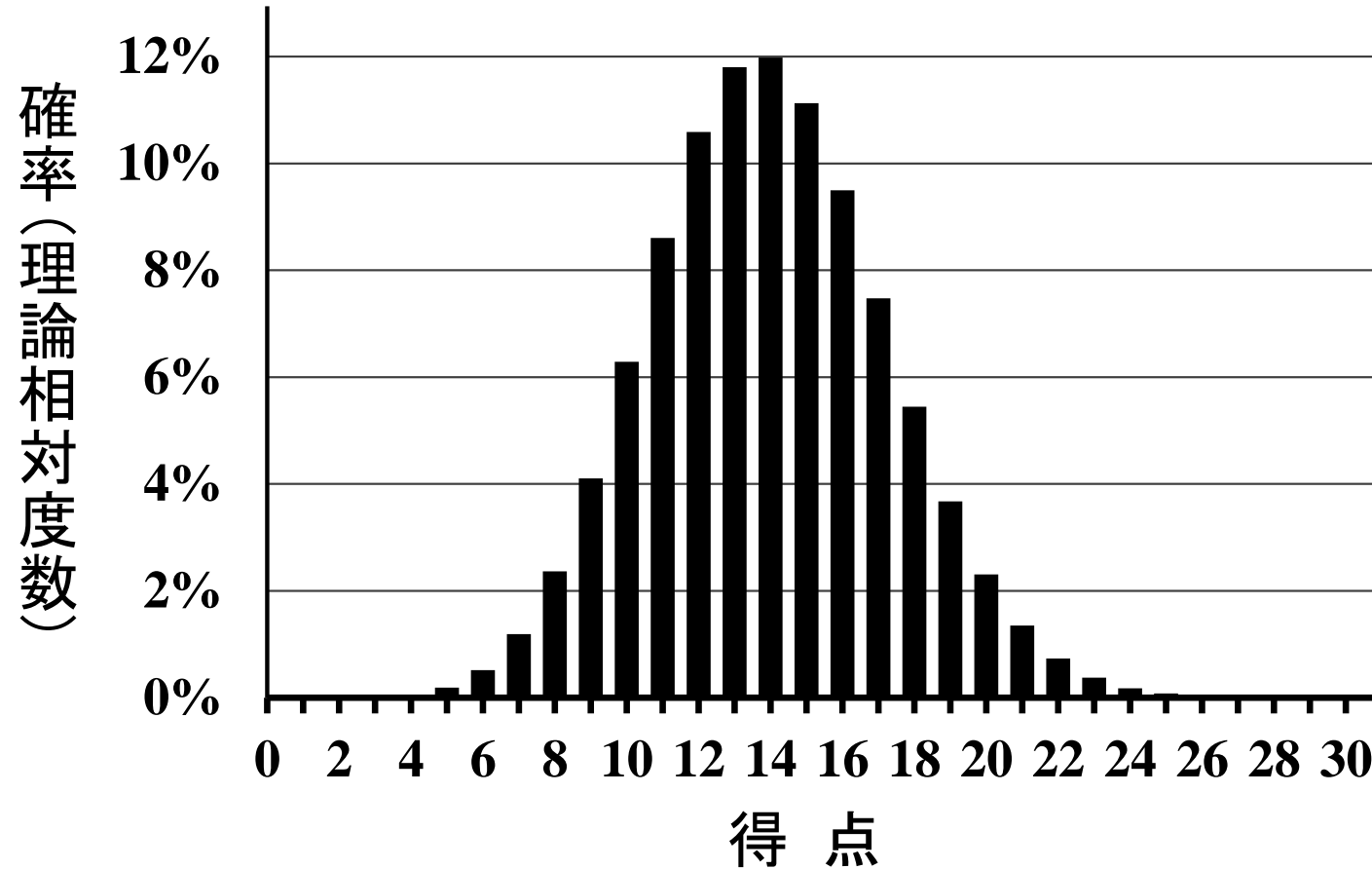
非識字者でも選択肢の配置は理解できるようになっていた

- 選択式問題に回答する際、インフォーマントは選択肢の一つに○を付けるよう試験官から口頭と黒板への板書で説明を受けた

のうちの、どれにあたるかを答えてもらいます。たとえば、わたくしが「あたま」(調査者ジシンノ頭ヲ示ス)といいましたら、この五つのうち(黒板デ示シナガラ)から、「あたま」という字を見つけて○^{マル}でかこむのです(黒板ニ示ス)。それでは、これはためしですから、みなさまも鉛筆を持って「あたま」という字を○でかこんでみてください。いいですか。一度つけた○を直したいときには、それを×^{バツ}じるしで消し、正しいと思うほうを○でかこんでください。

- 選択式問題は当て推量（guessing）や勘で選択肢を選んだ場合でも偶然に正答することがある
 1. 「難問の選択肢は適当に選ぶべし」という方略は小学生でも知っている
 2. 偶然に正答する確率の程度を「チャンスレベル」という

1. 選択式問題65問のすべてにおいて当て推量で選択肢を選んだ場合、得点は何点ぐらいになるかを複合2項分布で計算
2. 分布は正規分布（ベルカーブ）に近い形



- 下の表の**累積確率**とは，完全な当て推量による回答によって当該得点以下の得点を得る確率
 1. たとえば，14点までの累積確率は57.698640%
 2. 15点以上を取れる確率は42.301360%（100から57.698640を減じる）
 3. これを**上側確率**という

表1 完全な当て推量の場合の理論分布と得点の度数分布表

得点	完全な当て推量の分布			全国			
	確率	累積確率	上側確率	度数	相対度数	累積度数	累積相対度数
0	0.000015%	0.000015%	100%	293	1.7%	293	1.7%
1～4	0.072266%	0.072280%	99.999985%	116	0.7%	409	2.4%
5～9	8.370139%	8.442420%	99.927720%	123	0.7%	532	3.2%
10～14	49.256220%	57.698640%	91.557580%	174	1.0%	706	4.2%
15～19	37.224105%	94.922745%	42.301360%	213	1.3%	919	5.5%
20～24	4.943395%	99.866140%	5.077255%	216	1.3%	1135	6.7%
25～29	0.133072%	99.999212%	0.133860%	252	1.5%	1387	8.2%

非識字者の判定基準

- 複合2項分布を用いた確率計算により，4割以上の人が偶然に15点以上を取れることがわかった
- 統計的検定論に当てはめて解釈すると，15点の人は**非識字者のチャンスレベルにある＝非識字者のカテゴリーに含めるのが妥当**

非識字者の判定基準

1. この方法によると、25点以上を偶然に取れる確率は0.133860%
2. 偶然に25点以上を取れるのは800人に1人ぐらいなので珍しいことが起きたと解釈、つまり有意
3. このような場合、統計的検定論では24点以下を非識字者と判定する基準を立てる

非識字者率の推定

- 報告書に示されているデータから該当する人の割合を求めると**6.7%**に
- これが当時の**非識字者率の推定値の上限**を与える

表1 完全な当て推量の場合の理論分布と得点の度数分布表

得点	完全な当て推量の分布			全国			
	確率	累積確率	上側確率	度数	相対度数	累積度数	累積相対度数
0	0.000015%	0.000015%	100%	293	1.7%	293	1.7%
1~4	0.072266%	0.072280%	99.999985%	116	0.7%	409	2.4%
5~9	8.370139%	8.442420%	99.927720%	123	0.7%	532	3.2%
10~14	49.256220%	57.698640%	91.557580%	174	1.0%	706	4.2%
15~19	37.224105%	94.922745%	42.301360%	213	1.3%	919	5.5%
20~24	4.943395%	99.866140%	5.077255%	216	1.3%	1135	6.7%
25~29	0.133072%	99.999212%	0.133860%	252	1.5%	1387	8.2%

非識字者率の推定

1. もちろん、非識字者全員が選択式問題のすべてに回答したとは考えられない
2. そもそも多肢選択式の出題は珍しい時代だった
3. しかし「非識字者のチャンスレベルを統計的に有意に上回っている人だけを非識字者ではないと解釈する立場」を排除することは合理性を欠く
4. 非識字者率は定説の「1.7%」ではなく「6.7%」と考えるべきでは
5. 以上のことを「チャンスレベル問題」と称する

3. 結果

(3) 非識字者率における生年の効果

- ここまでは復習, ここから新しい内容です

非識字者の判定基準

- チャンスレベルを考慮した新基準であらためてデータを解析
 - 方法論の主体は報告書の数表をもとにグラフ化にはげむこと
1. チャンスレベルを考慮すると24点以下を非識字者と判定
 - 以下「チャンスレベル非識字者」と呼ぶ
 2. 報告書はゼロ点を非識字者と判定
 - 以下「報告書非識字者」と呼ぶことがある

あらかじめ結論を述べると

1. 生年が早くなる（年齢が高くなる）ほど、非識字者率が高くなる
2. 生年が早くなる（年齢が高くなる）ほど、チャンスレベル非識字者率と報告書非識字者率の差が拡大する

グラフを見てみよう：市部と郡部に区分した集計結果も示す

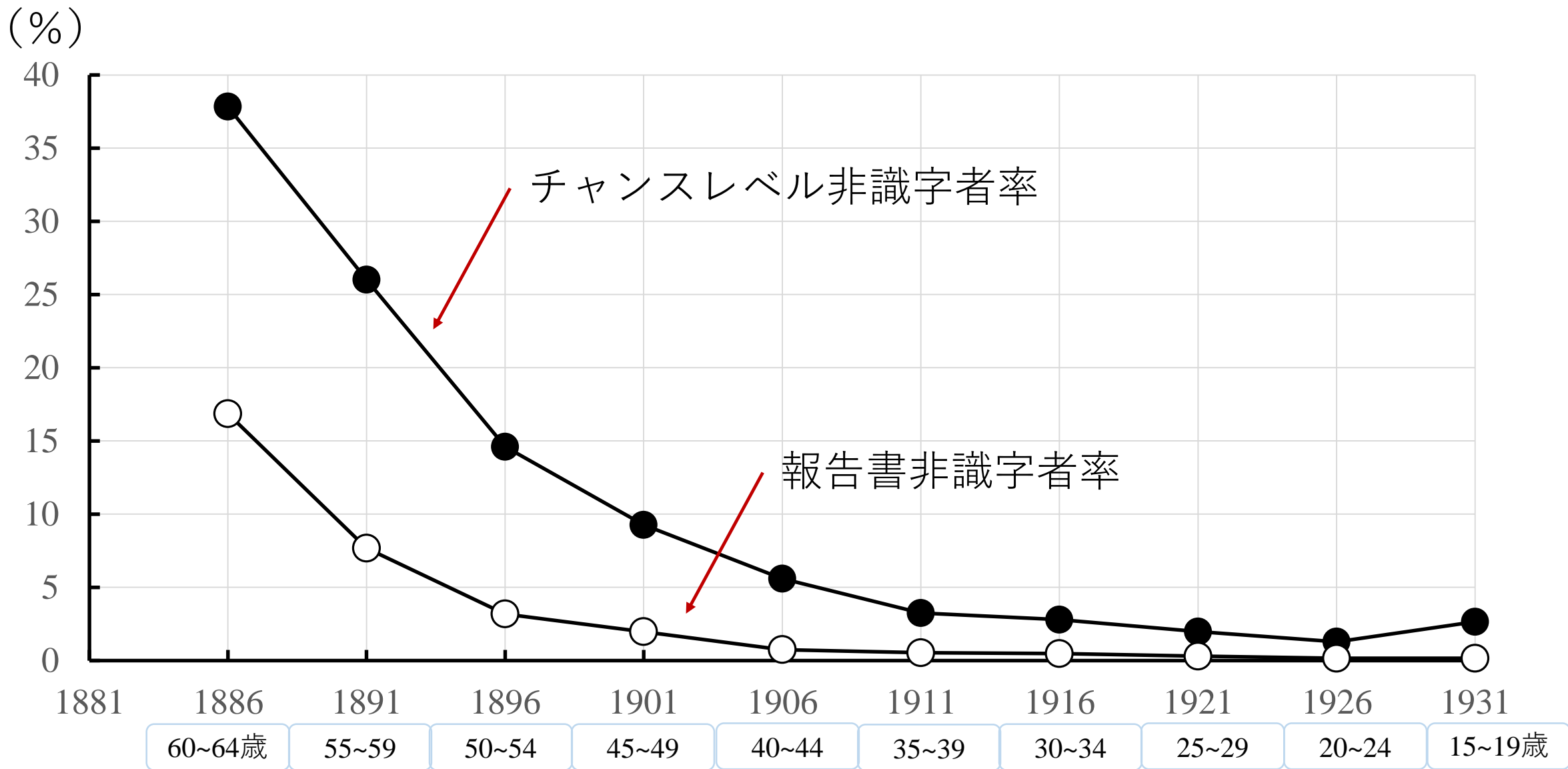


図1 非識字者率を報告書数表からグラフ化 横軸は生年 (年齢)

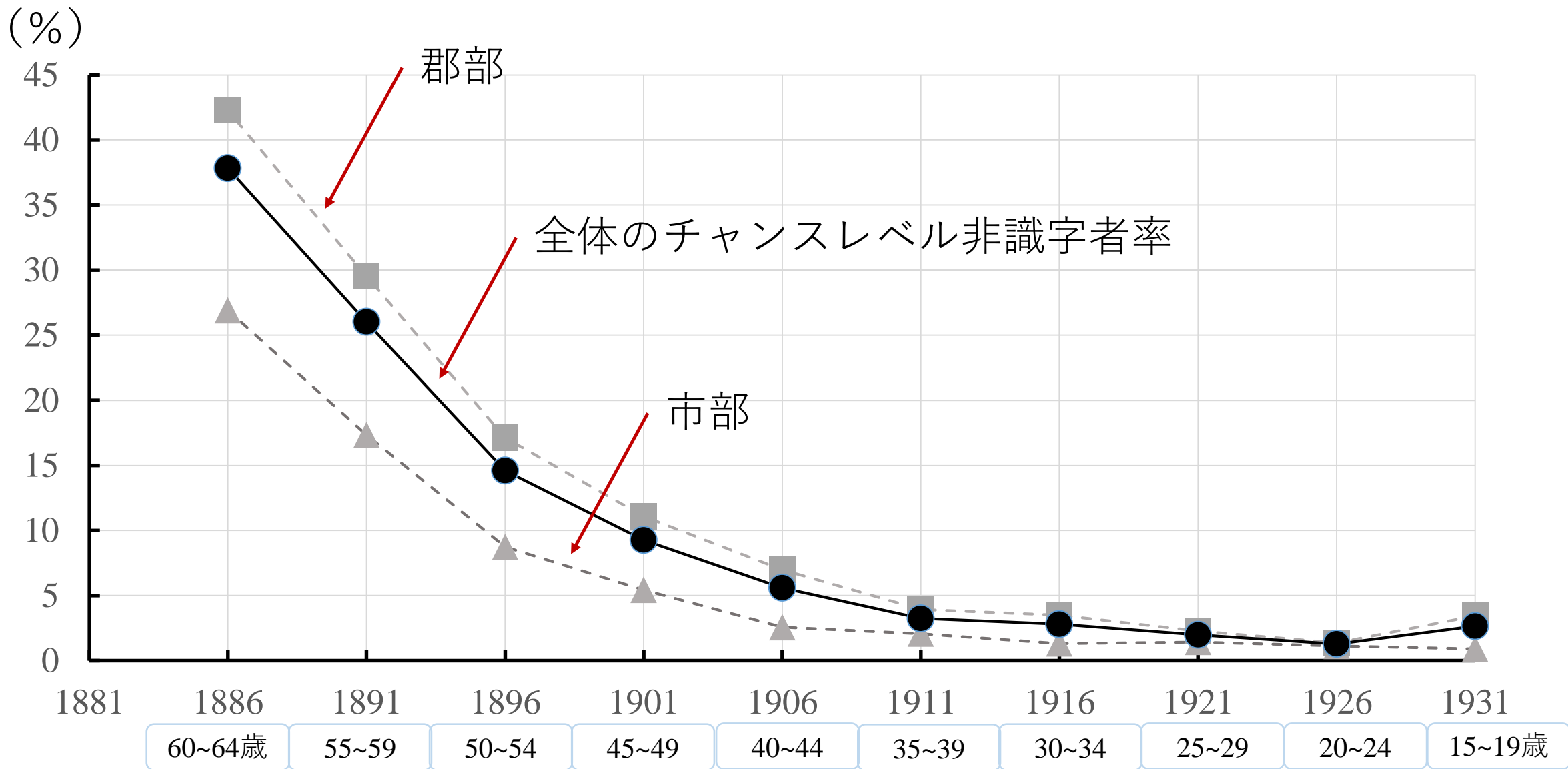


図2 チャンスレベル非識字者率を市部／郡部でグラフ化 横軸は生年（年齢）

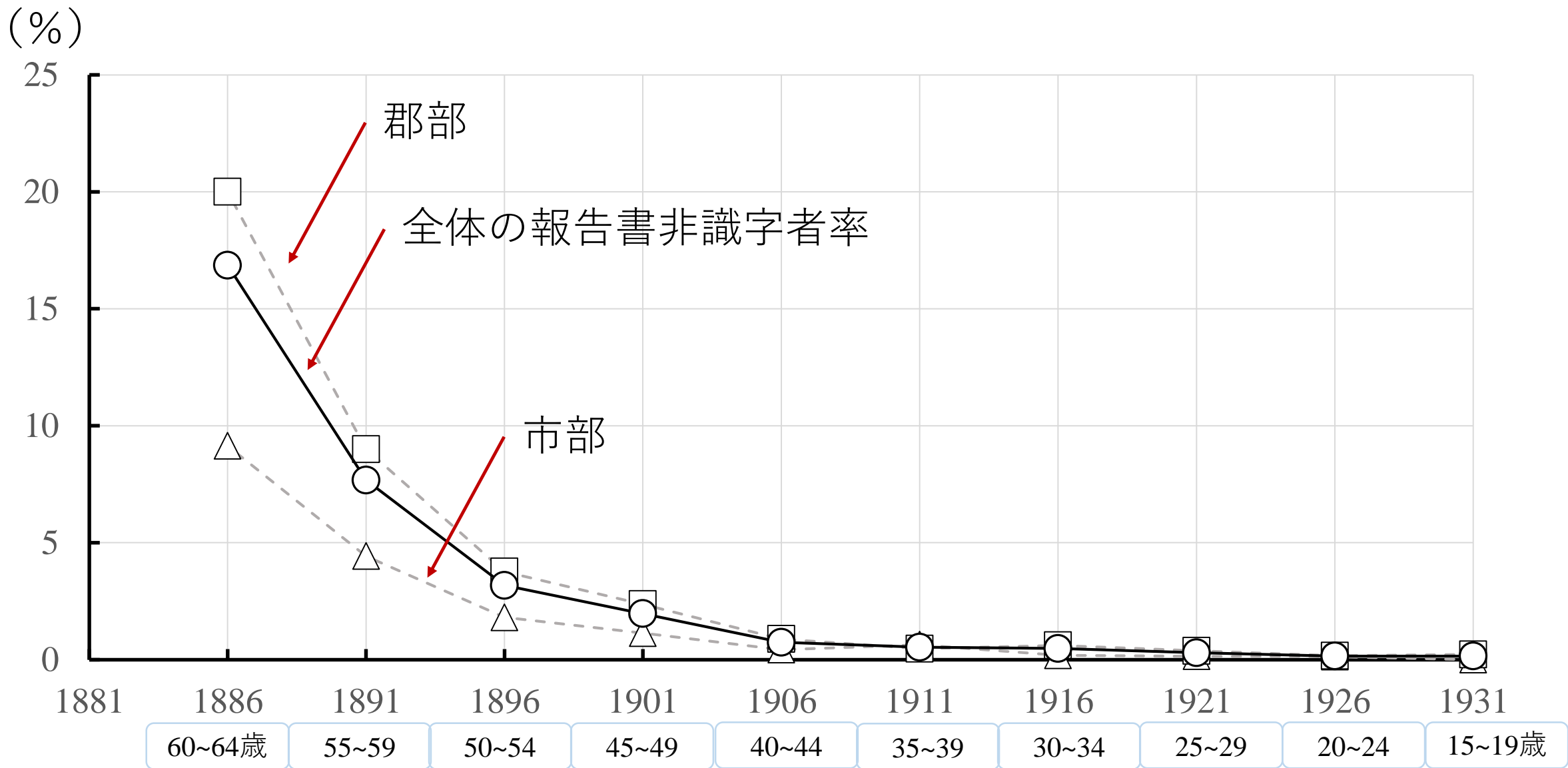


図3 報告書非識字者率を市部／郡部でグラフ化 横軸は生年（年齢）

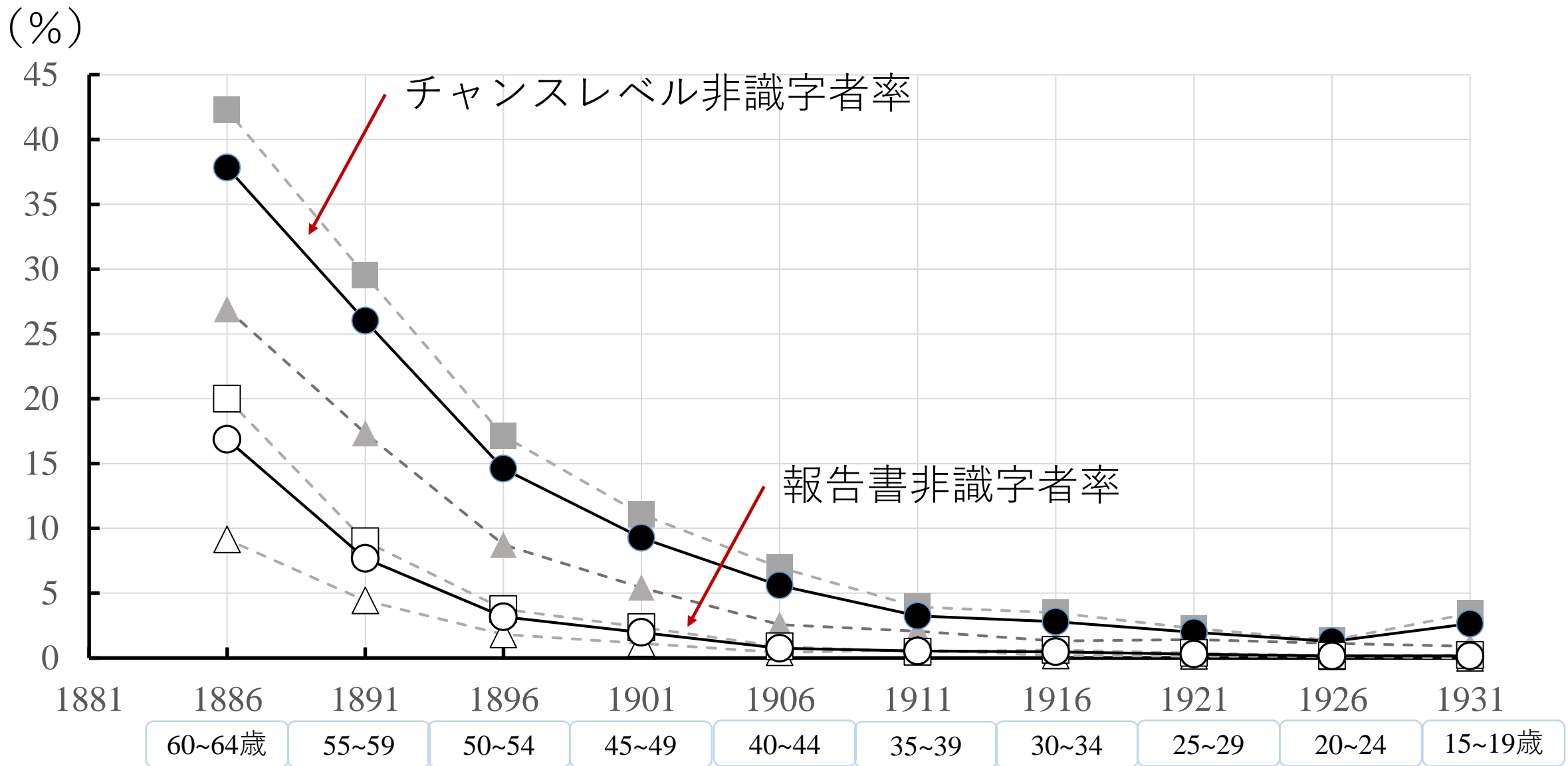


図4 非識字者率を市部／郡部でグラフ化 横軸は生年 (年齢)

非識字者率における生年（年齢）の効果は大きい

1. ロジスティック回帰分析によると非識字者率に及ぼす生年の効果は有意
 2. 居住地（市部／郡部）の効果も有意
- ロジスティック回帰分析の詳細は割愛
- 報告書でも年齢（生年）の効果や居住地（市部／郡部）の効果について明記されている
 - ただし、統計的検定や得点分布のカーブに関する解析はなされていない

非識字者率における生年（年齢）の効果は大きい

1. 尋常小学校**授業料無償化**が1900年（明治33年）に開始。50～54歳以下の年齢層あたりから恩恵を受けている可能性が考えられる
2. 今後は就学率のデータも含めて検討する必要あり
3. **男女差**については、100点満点換算した得点の平均値が生年（年齢）別
に示されているが、非識字者率は不明

4. 応用問題：1948年調査の結果がGHQによる日本語ローマ字化を阻止したって本当？

- ここまでの話はなんだか予定調和でいささか退屈だったかも
- 学会発表ではなくサロンなので遊んでみたく、ご容赦を

歴史学や政治学の観点から1948年調査の位置づけを考えると

- この調査の発端は、第1次**アメリカ教育使節団**が1946年3月31日にマッカーサー元帥に提出した『**報告書**』の第2章「**国語の改革**」
- ここで見落としとしてはならない点がある
- 日本を占領していたのは連合国であってアメリカ（だけ）ではないという事実
- ✓ 連合国のいちばん上に極東委員会（ワシントン、最高政策決定機関）
アメリカ合衆国， イギリス， 中国， ソヴィエト連邦， オーストラリア， オランダ， フランス， インド， カナダ， ニュージーランド， フィリピンの11か国のちに， ビルマ， パキスタンが加わって13か国
- ✓ その下に**対日理事会**（東京）
アメリカ合衆国， イギリス， 中国， ソヴィエト連邦の4か国

第1次アメリカ教育使節団報告書の第2章「国語の改革」について連合国すべてが賛成していたわけではないようである

1. 1945年11月， CIEが日本の文字言語の簡易化について調査・研究を開始（**秘扱**い）
2. 1946年1月， 中央通讯社（中国国民党）がCIEの動きを察知し「日本語表記のローマ字化計画」記事を中国に配信
3. 同年3月， 第1次アメリカ教育使節団報告書
4. 同年4月， **対日理事会で中華民国代表が漢字廃止に関する公式政策についてGHQのダイク准将に質問**
5. 同年5月， CIE特別会議で言語簡易化について議論

上記は茅島篤編（2017）『幻の日本語ローマ字化計画—ロバート.K.ホールと占領下の国字改革』から

➤ 次頁に国内外の緊張関係の状況を略年表で示す

GHQ占領期の略年表(日本：黒字， 海外：青字)

	政治・経済・社会	教育・言語政策
1945年	8月，第二次世界大戦終わる。マッカーサー来日。GHQの日本占領開始， 民主化・非軍事化を推進 。	
1946年	1月，天皇「人間宣言」。3月，チャーチル「鉄のカーテン」演説， 冷戦の始まり 。4月，戦後初の総選挙(婦人参政権の実現)。11月，日本国憲法公布。	3月，アメリカ教育使節団『報告書』でローマ字採用を勧告。11月「当用漢字表」「現代かなづかい」内閣訓令・告示。
1947年	5月，日本国憲法施行。12月，改正民法公布(家制度廃止)。内務省解体。	2月，文部省「ローマ字教育実施要項」公表。3月，教育基本法，学校教育法公布。
1948年	8月， 大韓民国成立 。9月， 朝鮮民主主義人民共和国成立 。11月，極東軍事裁判。対日占領政策の 経済復興重視への転換 。	2月「当用漢字音訓表」。8~10月， 読み書き能力調査実施 。10月，文部省教科書『民主主義上』。12月，国立国語研究所創立。
1949年	4月， NATO成立 。10月， 中華人民共和国成立 。11月，湯川秀樹にノーベル物理学賞。	4月「当用漢字字体表」。8月『民主主義下』刊行。
1950年	2月， 米マッカーシー旋風の始まり 。6月， 朝鮮戦争勃発 。7月から年末，企業のレッドパージ。	9月，第2次アメリカ教育使節団，ローマ字教育の改善勧告。
1951年	4月，マッカーサー解任。9月，サンフランシスコ講和条約調印。日米安全保障条約調印。	4月『 日本人の読み書き能力 』刊行。
1952年	4月，連合国の日本占領(事実上，米国の単独占領)の終結。GHQの廃止。日本の主権回復。	

歴史学や政治学の観点から1948年調査の位置づけを考えると

- 略年表にもある第1次アメリカ教育使節団『報告書』について、1946年4月7日の段階で、マッカーサー元帥は以下の声明を出した
 - 「国語の改革に関する勧告のなかには、あまりにも遠大であるため、**長期間の研究**と今後の計画に資するに過ぎないものもある」（英文原文は以下で閲覧可）
<https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=pur1.32754081234191&view=1up&seq=7>
- 国語改革に**積極的ではない**ように見える

1948年調査を企画した人々

連合国（軍）最高司令官総司令部民間情報教育局（GHQ/SCAP/CIE）

1. 責任者は文化人類学者の J. ペルゼル（John C. Pelzel）
 2. 教育心理学者の V. エドミントン（Vivian Edmiston）
- そのほか、河野六郎（言語学）、西平重喜（統計学）など

ペルゼル氏 (John Campbell Pelzel) について

- 1914年7月25日米国生まれ, 1999年10月18日に没 (85歳)
 1. 1918年 (4歳) 日本の統治下であった朝鮮で働くこととなった父に従い, 一家で朝鮮にわたり1931年 (17歳) まで13年間滞在
 2. シカゴ大学, ハーバード大学院で人類学を勉強, 1941年ハーバード大学で修士号取得
 3. 米軍海兵隊員に志願入隊, ハワイ大学に派遣され日本語教師の研修を受ける
 4. 真珠湾攻撃を経験, 太平洋戦争中はハワイやオーストラリアで日本の情報を分析
 5. 1945年10月~1946年6月, 米国戦略爆撃調査団 (United States Strategic Bombing Survey, 略称 USSBS ウズブーズ) として来日。CIEに移籍
 6. 1947年7月, CIE職員として再来日, 言語簡易化班 → 世論社会調査課長, 部長
 7. 川口市の鋳物工場で文化人類学的研究に没頭 (博士号取得のためのデータ収集)
 8. 読み書き能力調査翌年の1949年7月に帰国, 博士課程に進学: 当時35歳
 9. ハーバード大学教授を長く務める

エドミストン氏（Vivian Edmiston）について

1. 1946年8月来日， 1949年2月帰国
2. 後述の進学適性検査を1947～1948年に企画・実施
3. 1948年の読み書き能力調査も彼女が実質的に指揮（統計数理研究所，1981）
4. GHQのESS（経済科学局）に常駐していたIBM班に進学適性検査のデータ解析を指示（肥田野，2020）

『日本人の読み書き能力』（1951）の執筆陣

中央企画分析専門員会（略称，専門委員会）が日本語で執筆

- 委員長は石黒修（いしぐろ・よしみ，国語教育学）
 - 委員は柴田武（言語学），金田一春彦（国語学），城戸幡太郎（きど・まんたろう，報告書には教育学とあるが実際は心理学），梅津八三（心理学），林知己夫（統計学），白石一誠（統計学），影山三郎（新聞・雑誌，朝日新聞記者）の7名
 - さらに助手が21名いた。そのなかの2名に野元菊雄（言語学），肥田野直（心理学）
- ✓ ちなみに，この報告書全体の公式な英訳版は存在しない

✓ このような社会背景のもと以下のエピソードが生まれた

統計数理研究所（1981），文化庁（2003），阿辻哲次（2010），茅島篤（2019, 2020）などから会話（おそらく英語）の一部を再現

1. 1949年のある日，柴田武はペルゼルに呼び出された
2. 場所はペルゼルの部屋（第一ホテル，ペルゼルの宿舎）
3. ペルゼルは柴田に「字が読めない人が非常に多いという風になってくれなきゃ困る」というようなことを遠回しに言った
4. 柴田は「結果は曲げられない」と突っぱねた
5. ペルゼルは黙ってしまった
6. このやり取りは5分間ほど
7. これにより日本語ローマ字化は撤回された

■ このエピソードを起点とする「柴田神話」が流布

書籍

- 阿辻哲次（2010）『戦後日本漢字史』新潮選書，新潮社，40-
- **金田一春彦**（1988）『日本語 新版（下）』岩波新書，3-4【出題されていない「はる」という問題が出題されたと述べているのは不可解。また，得点が5点と記しているのも間違い】
- 文化庁（2003）「＜座談会＞戦後国語施策の出発－昭和20年代を振り返る－」『国語施策百年の歩み』文化庁，8-34

専門誌

- **柴田武**・田中克彦・無着成恭 [座談会]（1985）「言語解放の時代の精神史：昭和20年代（1945～54）特集 戦後40年のくらしとことば」『言語生活』401, 18-29

■ このエピソードを起点とする「柴田神話」が流布

テレビ放送，新聞報道

- 2020年9月18日 テレビ東京「やりすぎ都市伝説」
- 2010年9月23日 NHK総合「みんなでニホンGO!」
- 2008年12月5日 朝日新聞夕刊「民の心を測る」

■ このエピソードを起点とする「柴田神話」が流布

国立国語研究所や統計数理研究所の報告書

- 統計数理研究所（1981）『日本における統計学の発展 第9巻』1981年1月21日（水）に統計数理研究所でなされた対談記録，話し手は柴田武，聞き手は野元菊雄，場所は統計数理研究所，この19～20頁に当該の会話が出てくる【これが初出か？】

https://ismrepo.ism.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=33529&file_id=17&file_no=1&nc_session=gl38fvubl6m9m2dklrnb1vn375

- 国立国語研究所・統計数理研究所（2014）『第4回鶴岡市における言語調査 ランダムサンプリング調査の概要 資料編：第1分冊「音声・音韻」編』の「前書き」 https://www2.ninjal.ac.jp/longitudinal/files/tsuruoka4_report01.pdf

■ ペルゼルと柴田の証言は一致しない（以下の文献参照）

✓ ペルゼル証言「柴田の記憶が間違っているか、私がそのとき言おうとした何かを私がぜんぜん意図していない意味に柴田が取り違えたのだと思います」

1. 茅島篤（2019, 2020）「占領下の「日本人の読み書き能力調査」に関連する言説の検証（上）（中）」『ことばと文字』12号, 13号, くろしお出版
2. 勝岡寛治（1986）「日本人の『読み書き能力』調査について—占領軍日本語政策の一環として」『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊（哲学・史学編）』別冊第13集, 103-117【110頁に着目】
3. 佐藤寧（2014）「終戦直後に実施された世論調査の再検証」日本世論調査協会報『よろん』114 巻26-37【33～34頁に着目】

https://www.jstage.jst.go.jp/article/yoron/114/0/114_KJ00009573966/_article/-char/ja/

ここで、今回の分析結果をふりかえってみると

たとえば、60～64歳では

1. チャンスレベル非識字者率は38%
 2. 一方、報告書非識字者率は17%
 3. 両者の差は20ポイントを超え、かなり深刻な問題
 4. GHQがこの問題を見逃すはずがない
- ✓ その理由は次のページに

テスト理論・実践の専門家がGHQの要請で続々と来日

- なかでもGHQのエドミントン（先述）の依頼で来日したクロンバックはテスト理論・実践の世界最先端に位置
- GHQが**チャンスレベルを知らぬわけがない**

■ クロンバック（Lee Joseph Cronbach）：テスト理論の世界的大家

1. 1947年4月上旬来日，同年5月中旬帰国
 2. 1947年に実施された**進学適性検査**（本質は知能検査，**共通1次テスト等の源流**と言われる）のデータ解析を担当
 3. 11万5,047名から得た13万枚以上の答案をGHQのESS（経済科学局）のIBM統計計算機にて高速処理，半年以内に集計表を出力，1948年6月集計完了
- ✓ 進学適性検査の企画には小保内虎夫，高木貞二，肥田野直ほかも参加

- 最後に、ここまでの情報にもとづいて、ペルゼルと柴田の会話について推理してみたい（物的証拠はまったくないけれども）
 1. 1949年のある日、柴田武はペルゼルに呼び出された
 2. 場所はペルゼルの部屋（第一ホテル、ペルゼルの宿舎）

- 最後に、ここまでの情報にもとづいて、ペルゼルと柴田の会話について推理してみたい（物的証拠はまったくないけれども）
3. ペルゼルは柴田に「多肢選択問題における当て推量の得点を考慮すると字が読めない人が非常に多いという結果になる。ところが、報告書の結果は当て推量による得点を無視しており、字が読めない人が不当に少なくなっている。それは困る」というようなことを遠回しに言った
 4. 柴田は「結果は曲げられない」と突っぱねた
 5. ペルゼルは「日本側はテスト理論の初歩を理解していないのだね」と心の中でつぶやいて黙ってしまった
 6. このやり取りは5分間ほど（常識的には、これだけの私的会話でGHQが方針を転換するわけがないと考えるのが妥当だろう）

引用・参考文献

- 今村茂雄（1952）「IBM計算機械組織」『生産研究』東京大学生産技術研究所紀要4巻4号，152-157
- 岡崎世雄・小長谷和高（2009）「水品浩：創業期日本アイ・ビー・エム(株)社長：Customer's Satisfactionに捧げた闘志」『城西国際大学紀要』17巻5号メディア学部，15-28
- 勝岡寛治（1986）「日本人の『読み書き能力』調査について—占領軍日本語政策の一環として」『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊（哲学・史学編）』別冊第13集，103-117
- 茅島篤編（2017）『幻の日本語ローマ字化計画—ロバート.K.ホールと占領下の国字改革』くろしお出版
- 茅島篤（2019, 2020）「占領下の「日本人の読み書き能力調査」に関連する言説の検証（上）（中）」『ことばと文字』12号，13号，くろしお出版
- 木村拓也（2006）「戦後日本において『テストの専門家』とは一体誰であったのか？——戦後日本における学力調査一覧と『大規模学力テスト』の関係者一覧」『教育情報学研究』4，67-100，東北大学大学院教育情報学研究部・教育部
- 金田一春彦（1988）『日本語 新版（下）』岩波新書，3-4
- 佐藤寧（2014）「終戦直後に実施された世論調査の再検証」日本世論調査協会報『よろん』114巻26-37
- 芝祐順・渡部洋・石塚智一（編）（1984）『統計用語辞典』，新曜社

引用・参考文献

- 島村直己（1993）『近代日本のリテラシー研究序説—付・文献目録』『研究報告集14』139-203, 国立国語研究所
- 角知行（2012）『識字神話をよみとく—「識字率99%」の国・日本というイデオロギー』, 明石書店
- 統計数理研究所（1981）『日本における統計学の発展 第9巻』
https://ismrepo.ism.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=33529&file_id=17&file_no=1&nc_session=gl38fvubl6m9m2dklrnb1vn375
- 野山広（2017）「基礎教育保障の基盤となる人材確保等の課題と展望—夜間中学における日本語の教育を支える人材に必要な資質・能力という観点から—」『基礎教育保障学研究』創刊号, 22-35, 基礎教育保障学会
- 肥田野直（2020a）「[心理学の戦後—米国教育使節団と日米学者, 1943年～52年] 第3回, 進学適性検査：エドミントン, 1947年」『UP』49巻5号, 29-35, 東京大学出版会
- 肥田野直（2020b）「[心理学の戦後—米国教育使節団と日米学者, 1943年～52年] 第4回, 進学適性検査：私とその後の進学テスト」『UP』49巻7号, 16-22, 東京大学出版会

引用・参考文献

- 肥田野直 (2020c) 「[心理学の戦後—米国教育使節団と日米学者, 1943年～52年] 第5回, 読み書き能力調査: ペルゼル, 1948年」『UP』49巻9号, 18-24, 東京大学出版会
- 肥田野直 (2020d) 「[心理学の戦後—米国教育使節団と日米学者, 1943年～52年] 第6回, 読み書き能力調査2: 国字の改革」『UP』49巻11号, 36-41, 東京大学出版会
- 福永由佳 (2013) 「書評: 角知行著『識字神話をよみとく』」『社会言語学』13, 211-219, 「社会言語学」刊行会
- マックアーサー司令部公表 (1946) 『米国教育使節団報告書』国際特信社訳, <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1272931> (国立国会図書館デジタルコレクションで公開), 英文原文はReport of the United States Education mission to Japan, submitted to the Supreme commander for the Allied powers, Tokyo, March 30, 1946, 以下で閲覧可
<https://babel.hathitrust.org/cgi/pt?id=pur1.32754081234191&view=1up&seq=7>
- 水谷静夫 (1952) 「読み書き能力調査委員会編「日本人の読み書き能力」」『国語学』第9輯, 110-112
- 読み書き能力調査委員会 (1951) 『日本人の読み書き能力』, 東京大学出版部
- The US Navy Japanese/Oriental Language School Archival Project (2016) The Interpreter Archives, University of Colorado at Boulder Libraries No. 215

附記)

1. 西川賢哉氏（国立国語研究所非常勤研究員）が文献情報を提供してくださった。感謝の意を表する
2. 本研究は科学研究費補助金19H00627基盤研究（A）「基礎教育を保障する社会の基盤となる日本語リテラシー調査の開発に向けた学際的研究」（研究代表者：野山広）の成果である

ご参加くださり，ありがとうございました
以下の情報を求めています。ご協力をよろしくお願いいたします

✓ 先のスライド41枚目について

- 第2次世界大戦後の連合国の第1次アメリカ教育使節団報告書第2章に対する意見表明の一覧表を作りたいと思っています
- ロシア語，中国語などを母語とする研究者のみなさん，情報提供をどうぞよろしくお願いいたします

yokoyama@ninjal.ac.jp